

32. 新棟移転と同時期の2交替制勤務導入の取り組み

防衛医科大学校病院 堀 千鶴子

【実践の概要】

国立大学病院の殆どが独法化し入院基本料7:1を取得していく中で、当院は独法化の見送り、入院基本料10:1のままである。看護師数は定員割れが続き病棟は常に疲弊した状況であった。計画から10年を要した新棟移転を目前にH21年看護部は現状打開策として病棟再編を提案し院内合意のもと始動した。工事の関係上1病棟単位の病床数も減少されたためこの時期一部の病棟で2交替制勤務(夜勤16時間)を試行した。将来的に2交替制に移行することで看護師の定着、離職防止につながることを期待し実施した。さらに11月実施の看護師業務量調査を分析し(未だ分析途中)現行の看護師の勤務形態が患者のニーズに込えているかを考えた。新棟移転を機会に看護師の2交替勤務へ変更するため取り組んだ結果を報告する。

【実行計画】

期間：平成21年11月～平成22年2月

方法：①他施設訪問 ②看護部内の調整(夜勤12時間の導入・新棟看護師長の決定・新棟での2交替導入時期を含むタイムスケジュール) ③看護師業務量調査結果分析 ④新棟看護師長と勉強会(12時間夜勤の勤務表作成・看護師との調整・16時間の実施(AB部署)・12時間の実施予定(C部署-既に16時間勤務経験))

【結果】

- ① 訪問により多種多様の勤務形態とその実際を知り、当院では16時間夜勤は長いという声が多くあり、12時間夜勤を取り入れる機会となった。
- ② 看護部内では12時間夜勤という案はなかったため提案し、1週間の勤務時間、休暇取得を新病棟の新人を除外した看護師数で試算し実施の可能性が見えた。新人の夜勤開始を5月以降とする事、また3人夜勤で新人の負担も軽減される予測をたてた。新棟看護師長を1月初めに決定、看護部長から本人へ伝えた。新棟での2交替制導入の時期は4月にこだわらず状況を見ながら流動的に検討する(但し予算上早めの導入がよい)こととした。
- ③ 看護師業務量調査結果から「日勤：看護師間の情報交換84分/人、準夜勤：記録入力98分/人 看護師間の情報交換71分/人、深夜勤：記録入力29分/人 全身観察・測定26分/人」であった。身の回りの世話に係る時間より記録入力、看護師間の情報交換(申し送り)に時間をとられている。ナースコール対応や食事介助、清拭より注射準備等に時間を割き、それは早出遅出が対応している。申し送りや記録入力時間を短縮するためにも2交替勤務が良いといえる。
- ④ 新棟の看護師長に声をかけ勉強会を開催した。結果12月中に看護師へ説明し1月試行の病棟が1部署、2月試行は3部署となり看護師の感想は他施設と同様であった。3月から1部署(既に16時間実施)が12時間勤務を試行することとなった。4月から新棟は一斉実施となった。

【今後の課題】

移転と2交替勤務、PCの換装が同時に行われる中で変則勤務が看護師と患者に与える影響を見る。